

図書館報

聖隷クリストファー大学

第20号 2022.4

📖 自律の力を身に付ける教育について 伊藤信寿…………… 1	📖 この一冊 …………… 6
📖 本との出会い、人との出会い 入江 拓 …………… 3	📖 バージョンアップして新しくなる 医中誌 Web の使い方 …………… 9
📖 本を通じて豊かな人生を 泉谷朋子…………… 4	📖 データベースに関するお知らせ …………… 12



自律の力を身に付ける教育について

リハビリテーション学部作業療法学科 教授 伊藤 信寿

今回私は、1冊の本を通して「学ぶ」、「教える」ということについてお話ししたいと思います。その本は、『「目的思考」で学びが変わる～千代田区立麹町中学校長・工藤勇一の挑戦～』（多田慎介著）です。この本は東京都千代田区立の公立中学校で校長をしていた工藤勇一先生の学校教育改革の挑戦のお話です。現在の教育の中で、当たり前のように行われている定期試験や宿題、不必要な校則などなくし、いわゆる常識破りな教育改革を実践した教育者です。

学生のみなさん、小学校、中学校、高校での学校生活はどうでしたか？私は、振り返れば楽しいと思えることが、ほとんどなかったという印象です。偏

差値教育で一斉教育の中、みんなが同じことをして、ちょっとでも他人と違うことをすると注意される。靴下や靴は、白でないとダメ。ラインも白でないとダメなど、何のためにあるのかわからない校則。教員を対象としたある児童精神科医の講演会の中で、参加された教員に「先生方が、学習面、身体面、社会面の3つの中で最終的に子どもに身に付けてほしいことは何ですか？」と質問すると、ほとんどの先生が「社会面」と答えています。さらに「では最も大切と思われる社会面への支援について、今の学校では系統的にどんなことをされていますか？」と続けて質問すると、ほとんどの先生が「何もしていな



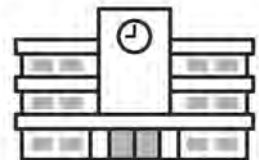
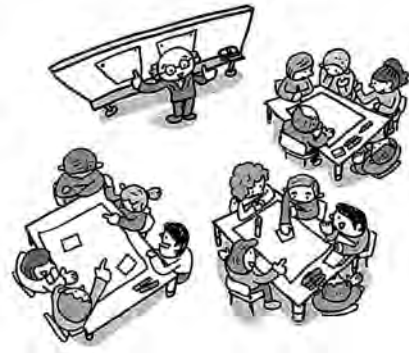
い」と答えるそうです。学習指導要領の中でも、学校は「生きる力」を育むとしています。私自身も勉強は教えられたけど、生きる力を教えられた記憶はありません。工藤先生は、「学校教育は子どもが社会でよりよく生きていくためにある」という本質的な教育の目的の実現に向けて、中学校での教育改革に取り組んでいます。

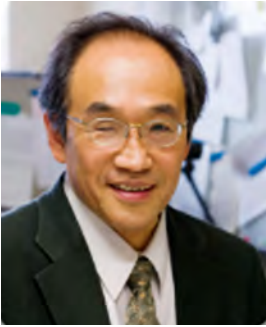
また、みなさんは、「良い子」とはどんな子だと思いますか？決まり事を守って、親や先生の言うことを聞く。親や先生からみたら、育てやすい、教育しやすいかもしれませんが、工藤先生は、言うことばかりを聞くようなら危機感を持った方がいいという見解です。「良い子」という概念を取り払い、「自律」の力を身につける教育の大切さを訴えています。社会に出たら、何もかも指示されることはありませんので、非常に大事な教育方針だと思います。ドイツの心理学者ヘッツァーも、聞き分けがない子どもほど社会的に成功しやすいと説いています。大人が言うこと全て正解ではなく、疑問を持ったり、決まり事を否定することで良いものが生まれる。いろんな情報を収集し、自分で判断する、そんな自律の力を身に付ける教育。非常に大事なことだと思います。

しかし、既存の教育を否定し、組織や誰かを批判

してばかりいては、教育改革は進まないとして、「世の中まんざらでもない、大人って結構素敵だ」と、一人ひとりの生徒が、そう感じることができるようになることを最上位目標としています。さらにこの最上位目標の実現に向けて、「みんな違っていい」、そして、「どの一人も大切にすること」という相反するこの2つの命題を念頭において教育改革を実現しています。「学校という組織の中で我慢しなさい」という教育は、もういない。これからは、子どもがやりたいことを尊重する教育。その実現に向けて、日々奮闘していた時の記録です。

「学ぶ」、「教える」ということ、特に将来、教育者になろうとしている学生に是非読んで考えてもらいたいと思います。





本との出会い、人との出会い

看護学部看護学科 教授 入江 拓

忘れられない記憶がある。当時5歳だった私は母と人通りの多い商店街を歩いていた。辻々で、白装束の傷痕軍人が虚ろな表情で地べたに座ってアコーディオンを弾いたり、板切れに何かをびっしり書き殴ったものを持って通る人に訴えかけるなどして日銭を稼いでいた。中には、肘まで切断された切り株のような両手を地面について無言で雑踏に行く人を血走った目で睨んでいる人もいた。とにかく怖かった。そのような風景がまだ身近にあった。多くの人が目を逸らし足早に通り返り、空缶に小銭を投げ入れては離れ去る。

母は私の手を引いてアコーディオンを抱える人の前にゆき、「こんにちは」と声をかけ、膝をついて何やら話していた。他と全く違う母の態度は私を戸惑わせた。「この人は戦争で大砲の破片にあたって足がちぎれて、仕事ができなくてこうやってお金を稼いでいるんだって。今日のご飯は野菜くずのお鍋。たくちゃんと同じくらいの男の子と二人暮らしだっ」。雑踏の中で、私は直立不動で、物悲しいアコーディオンの演奏を最後まで母と聞いた。母は「悲しい曲ですね。でもしみりと聞き惚れました。息子さんとお鍋楽しみですね。ありがとうございます。また聞かせてくださいね」とだけ言ってその人に深々とお辞儀をし、空缶にお金を入れるでもなく、私の手を引いてその場を静かに離れた。その人は少し微笑んだように見えた。

それ以降「戦争」という言葉が私につき纏った。生きることは大変なのだといつも漠然と感じていた。当時の社会は目まぐるしく前へ前へと躍動して

いて、周りの大人や教師は「戦争」の事など誰も口にしなかった。小学校高学年になると一人で世田谷区立図書館に通いつめた。窓がないカビ臭い部屋の奥まった書架には、『LIFE』など外国の報道写真集が沢山あった。戦場の生々しい場面やホロコースト、無惨に殺された女性や子ども、原爆の惨状のカラー写真、政治家の暗殺、独裁者の所業、公民権運動の自由と人権をめぐる血生臭い暴力場面の写真やその解説記事。迫ってくる圧倒的なリアリティにのめり込んだ。ジャーナリスティックな翻訳記事などを読み漁りながら、なぜ学校の図書館には退屈な専門書や文科省推薦の本や図鑑しかないのかといつも怒りと虚しさを抱えていた。だから日本は負けたんだと、様々な問いを大人や教師にぶつけても、皆一様に戸惑った表情をして、その都度巧妙に逃げた。

高校～大学生になると、一人で神田神保町の古本屋街を徘徊しては喫茶店に籠り、社会学や哲学系の本、猥雑な人間の営みや物語を読み漁り、人間の弱さと醜さ、社会についての独善的な思索に耽溺し、二十歳になる頃には既に十分すぎるぐらいに人間と社会に絶望しきっていた。そして、時折自死の誘惑に苛まれつつも、表向きは小狡い学生を演じていた。

当時サークルで知り合った社会福祉を学ぶ女性から、「歩くブラックホール」とあだ名をつけられ、パールバックの『母よ嘆くなかれ』を渡された。知的障害を持つ我が子への社会の無理解と偏見に悲しみ苦しみながら、弱い立場におかれた人たちへのヒューマニスティックな擁護・人間の尊重を訴える内容だった。絶望していた人間もまんざらではないと思

えた。彼女たちと障害児施設に泊まりこんで子どもたちと交流する活動をしながら、弱さを抱える人間が共に生きる事の意味について正面から突きつけられ、福祉の分野に自分の将来を模索し始めていた。

大学4年の就職活動のさなか、結核と共に過酷な時代を生き抜き、満身創痍の弱さを私に晒しながら、それでもなお希望を語り続ける恩師から、長谷川保の『夜もひるのように輝く』を渡された。物語仕立てのノンフィクション。迫害されながらも命懸けで人間の尊厳と向き合い、同時に社会とも闘ってきた人間が今、浜松にいるらしい。この人は正真正銘の本物か、とんでもないナルシストのペテン師のどちらかに違いないと思った。とにかく落ち着かず、実際に会ってこの目で確かめてやろうと思った。就活の面接試験の待合室で、長谷川保に原稿用紙で10数枚の手紙を書いた。最後に「私は迷える一匹の子羊です。この本の主人公であり著者でもあるあなたなら、よもや私のような人間を放置するわけがないでしょう。近い将来必ず天国にゆく長谷川さんには地上での時間は限られています」と記した。「すぐに

浜松まできなさい」と返事が来た。半信半疑で浜松まで飛んでゆくと、開口一番「君は精神科病棟でアルバイトをしながら、看護を学びなさい。私が学長だから心配するな。一番大事なことはすべて精神科の患者さんが直接教えてくれる」そして「人と出会う時はくれぐれも常識から入るな。残るか帰るか5分で決めなさい。すぐこの場でだ!」と私に迫った。その時の私に5分は十分に長すぎた。全く看護に興味も関心もないまま、私はなぜか看護学生となり、アルバイト学生として精神科病棟の鉄格子の中で患者さんとの味わい深い日々を重ねることとなった。



本を通じて豊かな人生を

社会福祉学部社会福祉学科 准教授 泉谷 朋子

大学生になったので本を沢山読んでくださいね、と学生さんに伝えると、「私、本読むの苦手です」「読書は嫌いです」と言われることが少なくありません。幼稚園や保育園等では先生が絵本の読み聞かせをしてくれました。小学校では、読書感想文を書くこと

が夏休みの宿題になっていなかったのでしょうか？小さい頃から本に触れる機会があったはずなのに、なぜ読書が嫌になってしまったのでしょうか？小さいころから本に慣れ親しんできた私の方が普通じゃない!?!と思い、私と読書のつながりを振り返ってみ

ようと考えました。

私の父母はよく本を読む人たちでした。小さい頃からおもちゃより、『はらぺこあおむし』『ぐりとぐら』など絵本を買ってもらったことが多かったです。サンタさんに「クリスマスプレゼント、〇〇ちゃん人形がほしいです」とお願いしたのに、本が届いてがっかりした記憶があります。

小学生になると、日曜日に父と一緒に書店に行き、本を1冊買ってもらうのが楽しみでした。児童書コーナーで1時間ぐらいどの本にするか悩む、そんな子どもでした。弟は大好きな電車の本、私は岩波少年文庫の本を買ってもらったことが多かったです。『ふたりのロッテ』『長くつ下のピッピ』『やかまし村の子どもたち』のシリーズがお気に入りでした。『ふたりのロッテ』に出てくるすね肉のスープがどうしても食べたくて、料理上手だった祖母に作ってと頼んだことを覚えています。一方、『アンネ・フランクの日記』や『ガラスのうさぎ』を読んだことをきっかけに、第二次世界大戦について書かれた本を読むことに没頭した時期もありました。

中学・高校時代は推理小説にはまり、学校の図書室にあったシャーロック・ホームズやアルセーヌ・ルパンのシリーズ本を片っ端から借りて読んだ記憶があります。読み始めると止まらなくなり、宿題を忘れることも少なからずありました。

本を読むことが苦にならなかったのは、本を読む環境が整っていたこと、自分が面白いと思う本に出会えたからかもしれません。しかし、面白そうと思って読み始めたものの、途中で読むのをやめてしまった本も沢山ありました。その1冊に、ジャッドソンの『ジェーン・アダムスの生涯』（岩波少年文庫）という本がありました。表紙に描かれているかわいい女の子の絵が印象的で、小学生の時に父に買ってもらった本でした。読み始めたものの、表紙から想像していた内容とは異なり、関心が持てず数ページ読んで本棚にしまい込んでいました。

この本を再び手に取ったのは大学生になってから

でした。大学で社会福祉を学んでいた私は、ある授業でジェーン・アダムスという名前を聞きました。「どこかで聞いたことある名前だなあ」と思ったものの、この本とは結び付きませんでした。部屋の整理をしていた時偶然この本に気付き、「えっ？これって授業で習ったあのジェーン・アダムス？」と興味を持ち、再び読み始めました。

ジェーン・アダムスは、アメリカの社会事業家で、1800年代後半、シカゴのスラム街にハルハウスという地域の人々のためのセンターを開設した人です。のちにその活動が認められノーベル平和賞を受賞しています。この本には、ジェーン・アダムスの子ども時代からハルハウスを開設するに至った経緯、ハルハウスでの活動のことが書かれていました。改めてこの本を読み、小学生の時に社会福祉との接点があった!?!と不思議な気持ちになりました。茶色く変色したこの本は、今、私の研究室の本棚に鎮座しています。

子どもの貧困に関する研究の中には、貧困家庭で育った子どもは本を読む機会が少ないと指摘するものもあります。イギリスではどんな家庭に生まれてもすべての子どもが良いスタートをきれるように子どもに本をプレゼントするBook Trustという活動があります。ジェーン・アダムスが開設したハルハウスにも図書館があったと言われています。

先生方が本を読むことを推奨するのは、知識を得るだけでなく、本を通して皆さんの人生が豊かになることを知っていらっしゃるからだと思います。インターネットの普及により、ネット小説が登場しました。電子書籍で読むことができる本が増え、本自体を手にする機会は減ったかもしれませんが。ネットでも実際に本を手にするでもいいです。自分に合ったスタイルで、自分が好きなことについて書かれた本を読んでみてください。読書を通じて新たな発見があり、その発見が皆さんの人生を豊かなものにしてくれると信じ、これからも本を読むことを推奨していきたいです。

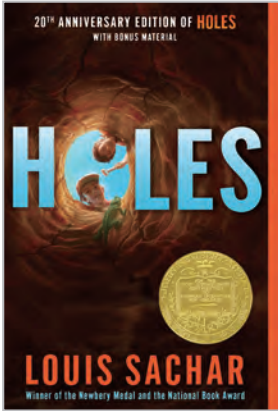
この一冊



本学教員からのお勧めの一冊

『HOLES』

Louis Sachar 著 Laurel-leaf



英語での読書を楽しむきっかけになった本です。私は英語教員であると同時に皆さんと同じ学習者であり、心躍る洋書体験をしたのは『HOLES』が初めてでした。主人公のスタンリー (Stanley) は、無実の罪で砂漠にある「グリーン・レイク・キャンプ (少年更生施設)」に送られ、直径・深さ1.5mの穴を一日一つ掘るように命じられます。前半は毎日毎日穴を掘る話で、読み手もじっと我慢…。後半になると物語は急展開、信じられない速度で大きな流れになります。ゼロ (Zero) との友情、冒険にワクワクし通し、一気に読み終えました。表紙からは想像できない達成感を、是非お楽しみに。

児童文学で翻訳版 (『穴 ホールズ』) も出ており、お勧めしたい一冊です。

看護学部看護学科 助教 渥美 陽子



『子育てのノロイをほぐしましょう：発達障害の子どもに学ぶ』

赤木和重著 日本評論社



誰しも「ダラダラ」することがあると思います。皆さんはそんなとき、「時間をムダにしてしまった…」と、自分を責めたりしませんか？もしそうだとすれば、あなたも「ノロイ」にかかっているかもしれません。これは、主に親向けの本ですが、親ではなくても、この本の言葉・発想にふれると、肩の力がふっと抜け、日々の頑張り方・楽しみ方が豊かになります。自分の育ちを振り返るために、あるいは、将来、誰かを支える者として、など、ぜひ色々な視点で読んでみてください。

看護学部看護学科 助教 太田 知実



『大学生の発達障害：不思議な「心」のメカニズムが一目でわかる』

佐々木正美, 梅永雄二監修 講談社



この本は、私が昨年赴任した際に、学生さんへの接し方のひとつとして、先輩の教員より紹介されたものです。発達障害もしくは傾向がある学生さんが大学生活を送る上で、どのように接して、本人、家族、大学で連携を取り支援体制を構築していくかといった内容となっています。イラストも交えて初学者の私にもとてもわかりやすく、大学生のみならず臨床での対象者に対しても応用できると思いました。

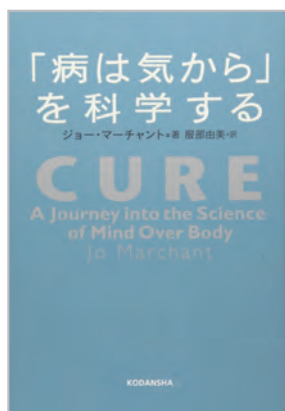
また、著者の佐々木正美先生は児童精神科医として40年以上、児の発達（自閉症を持つ人々のための支援プログラム、TEACCの紹介など）や子育てについて研究された著名な方です。私も子育てに悩んだ時に先生の本を手に取り助けられたことがあります。

リハビリテーション学部作業療法学科 助教 佐野 哲也



『「病は気から」を科学する』

ジョー・マーチャント著；服部由美訳 講談社



「病は気から」という言葉を皆さんも聞いたことがあるかと思いますが。この本では実際の患者さんの体験や事例を通して、人には、心の力を利用することで自分の健康に影響をおよぼす力があるということが科学的に立証されています。心と身体とは複雑に絡み合っていて、決して切り離すことはできません。この本を通して、心と身体と健康について、今一度振り返って考えてみませんか。

リハビリテーション学部理学療法学科 助教 田中 なつみ



『音さがしの本：リトル・サウンド・エデュケーション』

R・マリー・シェーファー, 今田匡彦著 春秋社



なんとも可愛らしいタイトルのこの本は、カナダの作曲家・音楽教育者である「R. マリー・シェーファー」が執筆しています。本のタイトルからも伝わるように、様々な「音」を「聞く・聴く」実践例が100個の課題集として紹介されています。

近年、幼児教育、小学校教育の音楽に関する学びでは、身の周りの音に着目した教育が求められています。

この本に出会い音への捉え方、感性的な音との出会いが日々の中で増えたような気がします。

オススメの本です。もしよければ是非読んでみてください。

社会福祉学部こども教育福祉学科 准教授 二宮 貴之



『沈黙』

遠藤周作著 新潮社



本書は、江戸時代の長崎の史実を基に書かれた歴史小説です。本書では、切支丹への激しい弾圧から多くの信徒が苦しみ、殉教したことが記され、彼らを守るため棄教へと追い込まれていく宣教師の苦悩が描かれています。また踏絵に従った当事者の思いが「踏んだこの足は痛か。痛かたとよオ」と残されています。九州出身の私には、この九州弁まじりの言葉が、深く心に刺さります。私たちは何を大切に生きていくのか、本書はそのことを論じています。

聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校 教員 山本 卓磨



バージョンアップで新しくなります!

医中誌Webの使い方

「医中誌Web」は、国内発行の医療系の雑誌から収録した論文情報のデータベースです。医学、看護学、リハビリテーション、福祉、介護、幼児教育などの分野の検索ができます。2022年4月27日(水)に、大幅にバージョンアップします。その使い方を紹介します。

アクセス方法：図書館ホームページの「調べる・探す」タブをクリックし、「データベース」の「医中誌Web」からアクセスします。

医中誌Webのトップ画面の説明

論文検索をする画面です。左サイドにはそれぞれの検索画面に移動するメニューがあります。



①論文検索

論文の検索はここから

②書誌確認

雑誌名や著者名の検索はここから
「部分一致」と「完全一致」の選択可能

③ゆるふわ検索

抄録や論文の一部文章を入力すると関連する文献がヒット

④書籍検索

図書のタイトルや著者名、キーワード等の検索はここから

⑤PubMed検索

PubMedが日本語で検索できる

⑥シソーラスブラウザ

シソーラス検索はここから
※シソーラス：簡単に言うと類語辞典
(詳しくは医中誌Webガイド参照)

⑦検索ボックス

ここにキーワードをいれて検索
▼をクリックすると「著者名」「収録誌名」等に変更可能

⑧辞書参照



収録誌や所属機関名等を一覧から選択し検索

⑨絞り込み条件

検索ボックスにキーワード等を入力後、絞り込みたいボタンをクリックし、色をつけ検索(複数選択可能)

論文検索の方法

医中誌Webでは、キーワードを1つずつ入力して検索をします。検索結果の検索式を組み合わせ「履歴検索」をし、必要な文献を探します。

1. 「検索ボックス」にキーワード等を入力し  (検索ボタン) をクリックします。
キーワードを絞り込む場合は、「絞り込み条件」から、絞り込みたいボタンを選択し  をクリックします。



2. 「検索履歴」と「検索結果」が表示されます。

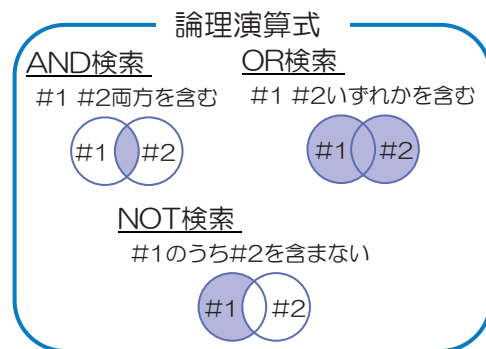
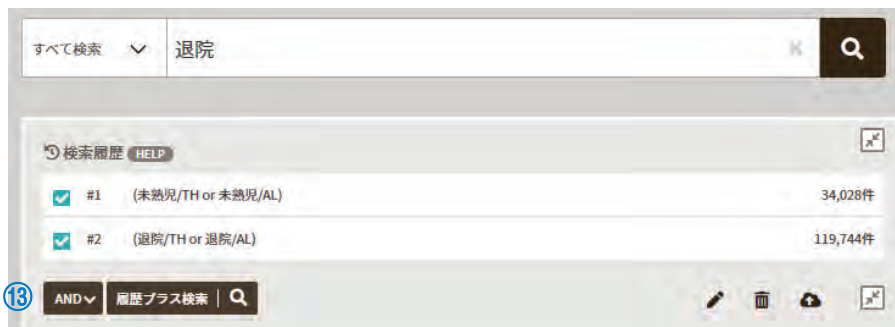


⑩検索履歴
「検索式」と文献の件数を表示

⑪検索結果
直前の検索式のタイトルと最小限の書誌情報を表示

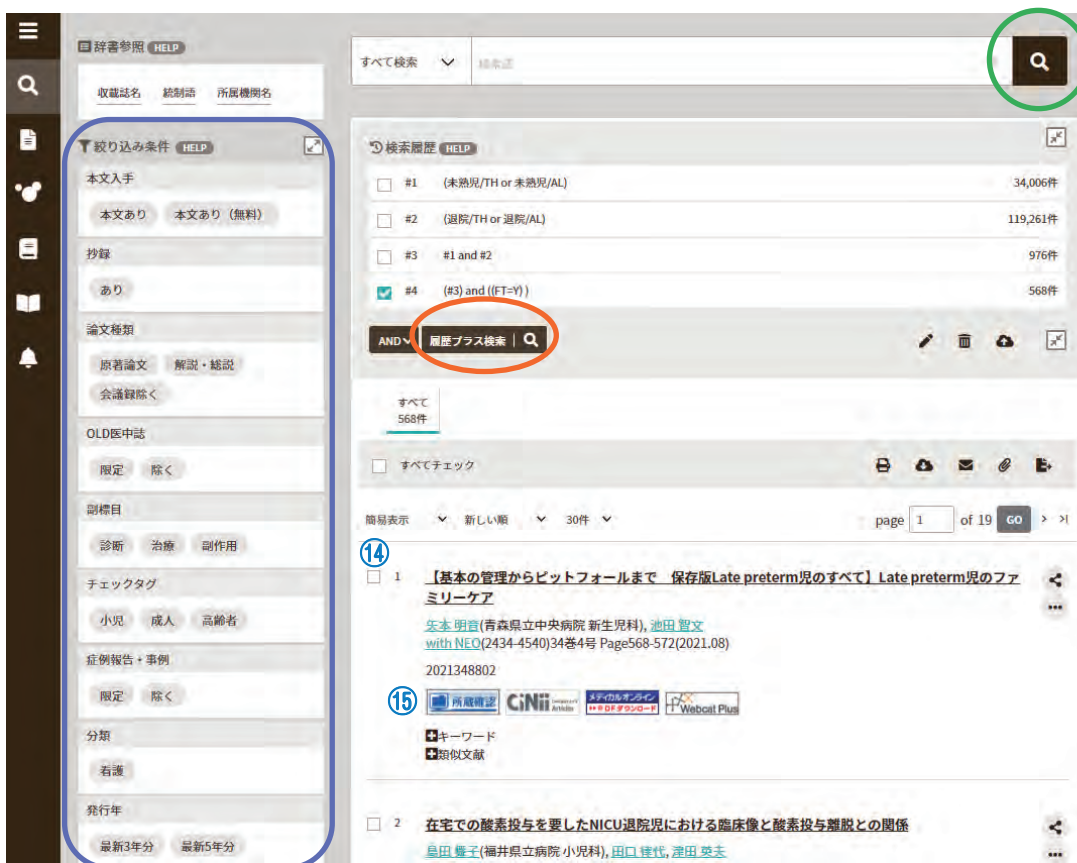
⑫類似文献
クリックすると内容が類似している文献を表示

3. 1.のように検索し、「検索履歴」から必要な「検索式」にチェックを入れます。**AND** から論理演算子を選択し、**履歴プラス検索** をクリックして履歴検索をします。



13 **AND、OR、NOT 検索**
クリックするとAND、OR、NOTのプルダウンを表示

4. 「絞り込み検索」や「履歴検索」で、件数を絞り込んでいきます。「検索結果」から必要な文献の書誌情報を確認します。本学に雑誌があると**所蔵確認** がつきます。表示されているリンクアイコンをクリックするとオープンで見られる論文もあります。また、必要な検索結果にチェックをし、**印刷** をクリックすると検索結果を印刷します。



14 **書誌情報**
論文名、著者名、雑誌名、巻号等を表示

15 **リンクアイコン**
クリックするとリンク先へ


主なリンクアイコン

- 所蔵確認** 本学OPACの所蔵画面へ
- メディカルオンライン PDFダウンロード** メディカルオンラインの文献へ
- 電子リポジトリ** 本学リポジトリの文献へ

絞り込み検索のボタンの違い

- ◆ 新規の検索に絞り込む時は、「絞り込み条件」を選択し **検索** をクリックする。
- ◆ 検索履歴に絞り込む時は、「絞り込み条件」を選択し **履歴プラス検索** をクリックする。

5. 論文の入手方法

- (1) 本学に該当雑誌があれば、「文献複写申込書」に記入し、カウンターに提出して複写する。
- (2) リンク先からオープンで論文が見られる場合は、プリントアウトする。
- (3) がなくても、所蔵している場合があるので、図書館ホームページから雑誌名を検索し、本学に該当雑誌の巻号があるか確認する。
- (4) 本学に該当雑誌がない場合は、他大学図書館へ複写依頼ができるので「相互利用申込書」に記入して、カウンターに提出する。(学内者限定)

※「相互利用申込書」は、図書館ホームページ「利用案内」から「館内資料の複写、文献複写・相互貸借」の「文献複写・相互貸借」にある学部生の「相互利用申込書」を利用

データベースに関するお知らせ

図書館ホームページ「調べる・探す」から、以下のページにあるデータベースが利用できます。



●「メディカルオンライン」に新機能が追加

- ・論文や電子書籍等の情報を一括で管理できる My コレクションが追加
- ・レスポンスデザイン化※

●「朝日新聞クロスサーチ」の紹介

- ・「聞蔵Ⅱビジュアル」が全面リニューアルし、名称変更
- ・画面デザインが一新
- ・レスポンスデザイン※



※スマートフォンやタブレットなどの画面サイズに合わせて見やすく最適化する機能

図書館は公共の場です。マナーを守ってお互い気持ちよく利用しましょう。

図書館報 第20号/発行・聖隷クリストファー大学図書館/2022年4月1日

〒433-8558 静岡県浜松市北区三方原町3453/TEL: 053-439-1416/FAX: 053-414-1146

E-mail: cl-library@seirei.ac.jp 図書館ホームページURL: https://lib.seirei.ac.jp/library/